

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	西宮市立名塩小学校 教諭 中島 友樹	研究グループ名 体育科教育研究グループ	5
-----------------	-----------------------	------------------------	---

研究テーマ分類番号(14)

(1) 研究テーマ

優れた体育授業づくりのための基礎的知見の蓄積  
～優れた実践的知見を元に、誰もが展開できる授業のフォーマットを求めて～

(2) 研究経過及び具体的な取組

7月23～25日、北九州市立高見小学校・北九州八幡ロイヤルホテルにて行われた「全国小学校体育科教育研究発表大会」にて、西宮市の取り組み「どの子ども有能感を感じることのできるバスケットボールの実践」を発表した。高度に教材化されたゲームの中で技能と認識力の高まりを感じつつ、チームの一員として自信を持ってプレーする子どもの姿を伝えることができた。参観者からは、学習の成果をどのように見取っていくのかという点についての(万人が納得でき、かつ、容易に測定できる)客観的なものさしの存在を構成してはどうかという意見をいただいた。学習評価の客観性の担保という課題を提示していただいたと感じている。

11月21日、藤井寺市立道明寺南小学校ほかで行われた「近畿小学校体育科研究発表大会」に参加した。発表校では、技能を身につけてからゲームを行うという考えのもとに単元が構成されていたが、我々の主張はゲームの中で技能を身につけていくというものである。どちらが正しいという類のレベルではなく、何をもってそう主張するのかを再確認するよい機会となった。

11月12日、2月上旬に行われる「兵庫県学校体育研究発表大会」で発表する元となる授業研究会を行った。サッカー型ゲームで構成された学習であったが、低学年からの積み上げが全くない中でどんなに優れた学習過程で構成された授業を行っても、求める技能・認識に対して全く到達できないという残酷なまでの現実を目の当たりにすることとなった。我々が進めている誰もが展開できる授業のフォーマットの完成を急がなければ、この過ちが繰り返されてしまうという危機感を切に感じた。

そこで、1月24日に筑波大学附属小・中学校及び、高等学校にて行われるサッカー型ゲームのみで構成された授業研究会に参加し、授業参観・事後研究会等を通して教材化への手がかりとカリキュラムの構成の実際について学ぶこととした。また、それに向けての事前学習会や書籍の読み合わせ等を通して、構成員の基礎的認識をこれまでのレベルとは一段高いものへと上げたうえで当日を迎えるべく、日々の研鑽を重ねている。

なお、これらの研究で得られた知見は1年生の4月から6年生の3月までの6年間を完全に網羅した形の学習フォーマット・西宮市オリジナル体育科カリキュラム「体育Do」へと還元している。来年度の4月からの完全実施が可能となるように、名塩小学校をはじめ、市内数校にて先行実施を行い、実践→反省→修正というプロセスを経てよりよいものへとするべく構成員一同励んでいるところである。